



YASKAWA



株主のみなさまへ

第91回 事業ご報告

平成18年3月21日▶平成19年3月20日

機械と人間の共生へ — Quality & Beauty

株式会社 安川電機

(証券コード:6506)

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社及び子会社、関連会社を含む当社グループの当期の業績について、概要をご報告申し上げます。

当期における世界経済は、原油や原材料の価格上昇による影響が懸念されましたが、欧米及びアジアでは概ね堅調に推移し、国内においても設備投資の拡大や雇用状況の改善等、緩やかな景気の拡大傾向が持続しました。

このような経済環境を捉え、当社グループでは当期から3か年の中期経営計画“ダッシュ100”をスタートさせ、攻めの経営を展開してまいりました。“ダッシュ100”では、シェア・事業規模・収益性における真のグローバルNo.1事業の確立、新規事業の立ち上げ・育成、売上高経常利益率10%の早期実現の3つを基本方針に掲げており、初年度である当期は、既存事業の強化及び事業領域の拡大を図るべく、注力市場である自動車市場、半導体・液晶市場、アジア市場、欧米市場への拡販及び新製品の開発、市場投入に注力いたしました。

この結果、当社グループの業績につきましては、売上高3,689億71百万円(前期比14.3%増)、営業利益335億64百万円(同37.1%増)、経常利益333億83百万円(同37.2%増)、当期純利益189億82百万円(同86.9%増)となり、いずれも過去最高の業績を記録いたしました。また、売上高、営業利益、経常利益については5期連続の増収・増益を達成いたしました。

なお、当社業績につきましては、売上高2,162億68百万円(前期比14.1%増)、営業利益141億39百万円(同73.6%増)、経常利益198億28百万円(同52.0%増)、当期純利益128億60百万円(同238.2%増)でいずれも過去最高となりました。

このような業績をふまえ、期末配当につきましては1株につき3円とし、さきの1株につき3円の間配当とあわせ年間で1株につき6円とさせていただきます。

今後の見通しにつきましては、景気動向は緩やかな拡大基調が持続するものと思われませんが、金利の上昇、米国経済の減速や為替変動等のリスクが懸念されます。

このような状況の中で、当社グループは、景気変動リスクに留意しつつ、中期経営計画“ダッシュ100”の2年目にあたる平成19年度を、その目標達成にむけて強力な地盤づくりを行う年と位置づけ、以下の施策実行のスピードを加速してまいります。

まず、ACサーボ・コントローラやインバータ、ロボットなどの主力製品において新製品の市場投入を強力に進め、営業力、開発力、生産力が一体となった総合力を発揮することにより拡販し、事業及びシェアの拡大を図ってまいります。一方で、新世代ロボットなど事業領域の拡大を強化してまいります。

また、建設中のインバータ新工場を今夏に移動させるなど、生産能力増強及び生産効率向上を図ってまいります。

つぎに、ブランド価値の源泉・基盤となる製品品質については、レベルアップの活動を継続、強化し、全社を挙げてお客様の満足度を一層高める努力をしてまいります。業務品質については、業務の標準化や透明性の高い業務プロセスの確立を進めるとともに、コンプライアンスを推進するなど、引き続き、内部統制システム構築を強化してまいります。

さらに、従業員一人ひとりの能力を一層高め、組織の力を最大限に発揮させることが当社グループの永続的な発展に不可欠であるとの考えに立ち、これまでの人材開発に新たな手法も取り入れながら、人材の育成に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

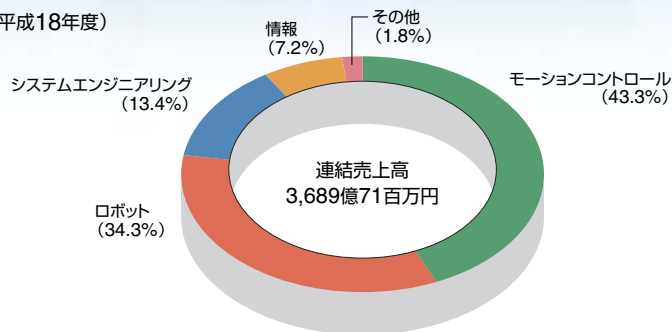


取締役社長

利島 康司

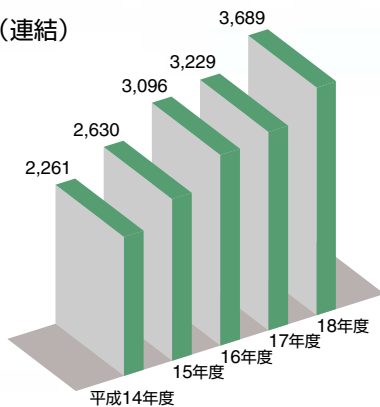
業績の推移

● 連結売上高の部門別比率 (平成18年度)



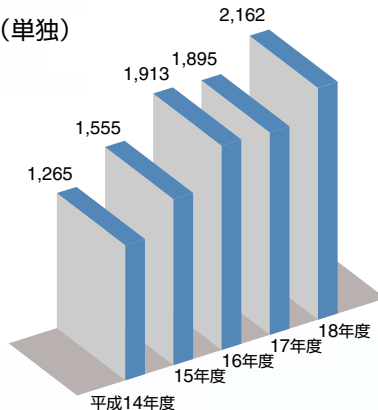
● 売上高 (連結)

単位: 億円



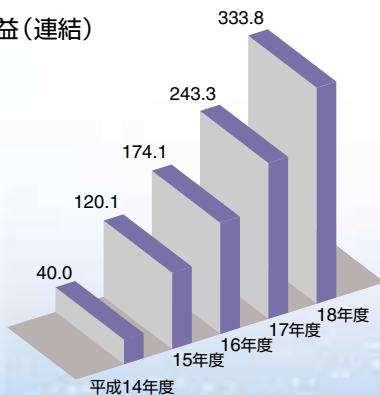
● 売上高 (単独)

単位: 億円



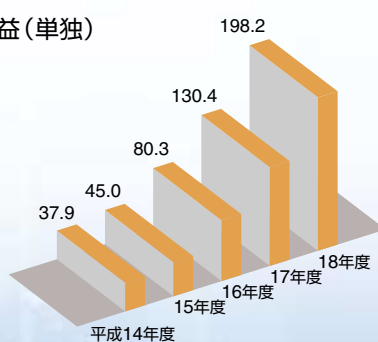
● 経常利益 (連結)

単位: 億円



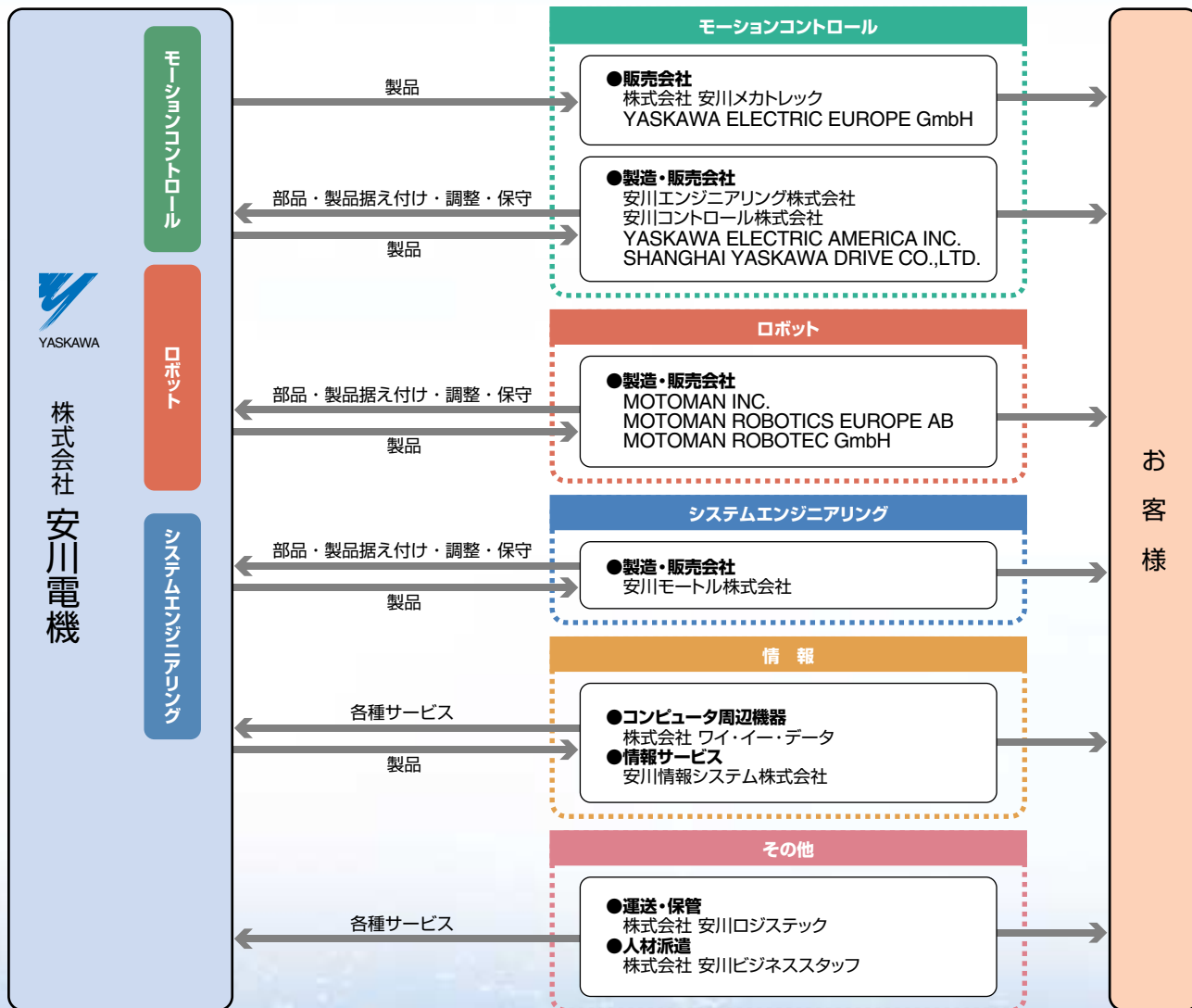
● 経常利益 (単独)

単位: 億円



当社グループの状況

当社グループは、当社を中核として子会社78社及び関連会社21社（平成19年3月20日現在）により構成され、「モーションコントロール」「ロボット」「システムエンジニアリング」「情報」「その他」の各部門の様々な分野において、製造、販売、据付、保守、エンジニアリングなどの事業展開を行っております。



業績の推移 / 当社グループの状況

(注) 上記の会社はすべて連結子会社であり、主要な会社のみ表示しています。
株式会社 ワイ・イー・データ及び安川情報システム株式会社の2社は東京証券取引所第2部に上場しています。

部門別の概況



モーション コントロール



主要製品

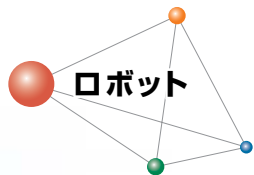
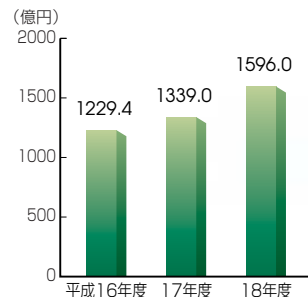
ACサーボモータ・制御装置	高速モータ	プログラマブルコントローラ
汎用インバータ	小形精密モータ	マシンコントローラ
工作機械用AC主軸モータ・制御装置	複合モータ	NCシステム
リニアモータ・制御装置	省エネモータ・インバータ	ビジョンシステム
DCサーボモータ・制御装置	高周波インバータ	その他

当部門においては、営業力の強化による市場開拓の推進を実施する一方、新製品の積極的な拡販及び品揃えを強化いたしました。また、高付加価値化に向けた取組みやコストダウン等の採算改善活動にも注力いたしました。

売上面では、ACサーボ・コントローラは、半導体・電子部品業界向けや海外向けが堅調で、インバータも海外の空調業界向けを中心に好調に推移いたしました。

この結果、売上高は1,596億1百万円(前期比19.2%増)、営業利益は198億32百万円(同61.5%増)となりました。

売上高の推移



ロボット



主要製品

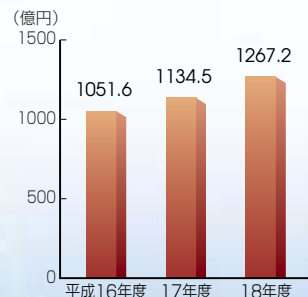
アーク溶接ロボット	特殊アクチュエータ
スポット溶接ロボット	クリーン・真空内搬送システム
塗装ロボット	ロボット応用FAシステム
ハンドリングロボット	医療・福祉サービスロボット
半導体・液晶製造装置用クリーン・真空ロボット	その他

当部門においては、引き続き、用途及び市場に最適な製品の拡販による既存市場の拡大を図ってまいりました。

売上面では、自動車業界向けの溶接、ハンドリング、塗装ロボット等は、国内向けは前期までの設備投資の調整局面が一巡し回復しましたが、欧米向けは設備投資抑制の影響を受けました。液晶業界向けのパネル搬送ロボットは、期前半は堅調でしたが、期後半から設備投資の延期の影響を受けました。一方、半導体業界向けのウエハ搬送ロボットは需要が回復しました。

この結果、売上高は1,267億23百万円(前期比11.7%増)となりましたが、営業利益は高付加価値製品の売上減少等により、89億83百万円(同8.8%減)となりました。

売上高の推移



(注)従来の「ロボティクスオートメーション」の名称を当期から「ロボット」に変更しております。

システム エンジニアリング



主要製品

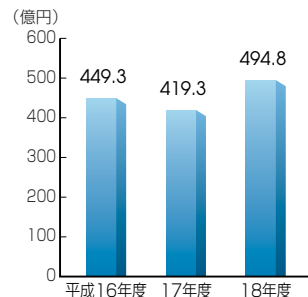
鉄鋼プラント用電機システム	パワーメトロシステム	高圧開閉装置	中大形誘導電動機
上下水道用電気計装システム	港湾荷役用クレーン制御システム	コントロールセンタ	中形発電機および発電装置
道路設備電源システム	紙・フィルム・液晶等可変速ドライブシステム	システム用制御盤	その他産業用回転機
環境プラント用電機システム	システム情報制御機器	電力用配電機器	その他
エレベータ制御システム	中容量高圧インバータ	永久磁石内蔵形回転機	

当部門においては、得意分野への特化及びコストダウンの強化を図るなど、利益構造改革を推進してまいりました。

売上面では、鉄鋼プラント用電機システムにおける需要増加を取り込むことに注力し、海外においては中国向けのクレーン用電機品が増加いたしました。

この結果、売上高は494億87百万円（前期比18.0%増）、営業利益は18億14百万円（同20億73百万円増）と黒字に転換いたしました。

売上高の推移



部門別の概況

情報・その他



主要製品

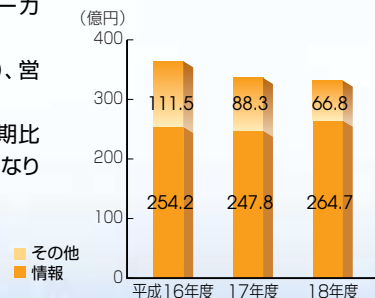
情報	その他
・フロッピーディスクドライブ	・OA機器
・二次元コードマーキング・読取装置	・物流サービス
・情報処理ソフト及びサービス	・人材派遣
	・その他

情報部門においては、各種カードリーダーを中心とするマルチメディア機器等や、通信事業者向けシステム構築、半導体・液晶メーカー向けの制御用ソフトの需要が堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は264億72百万円（前期比6.8%増）、営業利益は11億92百万円（同14.4%増）となりました。

その他の部門においては、売上高は66億86百万円（前期比24.3%減）、営業利益は18億75百万円（同11.2%増）となりました。

売上高の推移



新コンセプトのマシンコントローラ MP2400

マシンコントローラMPシリーズは、お客様の様々なシステム、機械にお使いいただいております。その結果、マシンコントローラでは国内シェア1位の実績をいただいております。

MP2400は、その実績に基づいた性能を継承し、小規模なシステム向けに「コンパクト&簡単」をコンセプトに開発した新製品です。

多軸コントローラで業界最小サイズ、簡単セットアップ、簡単プログラムなどの特長により、従来、マシンコントローラが適用されていなかった小規模システムへの拡販を図ってまいります。



オープンネットワーク MECHATROLINK-II(M-II)対応 ACサーボドライブJUNMAシリーズ

お客様にご好評をいただいている、サーボ調整不要のACサーボJUNMAシリーズに、オープンネットワークM-II対応の機種を追加しました。

M-II対応となることで、I/Oやモニタ、各種アラームの情報などを一括管理することができるようになり、システム、機械のセットアップやメンテナンスが、より簡単になりました。

MPシリーズと組み合わせることで、さらなる拡販を目指してまいります。



技術とノウハウのすべてを盛り込んだ 小形汎用インバータV1000

安川のインバータは、多くの革新的な世界初の技術を盛り込み、グローバルシェアNo.1を獲得してまいりました。

V1000は、高性能・高機能だけでなく、今まで以上に使いやすさを追求し、セットアップや保守時間を大幅削減できるインバータです。しかもクラス世界最小、クラス初のセーフティ機能搭載、欧州RoHS指令に標準対応、長寿命設計なども実現しています。

V1000の積極的な拡販によって、一層のシェアアップを目指してまいります。



高圧マトリクスコンバータの出荷を開始

世界で初めて、交流-交流直接変換「直列多重形マトリクスコンバータ方式」を採用した高圧ドライブ装置FSDrive-MX1の出荷を開始しました。FSDrive-MX1は、高圧インバータと同等の省エネ機能に加えて、モータ減速時に発生する電力を電源に戻す電源回生機能により、一層の省エネが可能です。電源回生機能とPWM制御により、ダイナミックな加減速運転や応答性の良い運転が実現できます。これにより、従来の高圧インバータを適用できなかった市場へ拡販を図ってまいります。

主な用途

- 重負荷で回生電力が大きい用途（鉄鋼プロセスラインなど）
- 加減速応答性が必要な用途（ボイラ用ブロワなど）
- 回生負荷が必要となる用途（試験装置など）



世界最高速のアーカ溶接ロボット MOTOMAN-SSA2000

ロボットアームの各関節を駆動するサーボモータに最新の制御技術を適用することにより、ロボット速度を最大40%アップした世界最高速のMOTOMAN-SSA2000を商品化しました。さらにロボットコントローラとアーカ溶接電源間の信号処理時間を最短化して無駄時間を削減したため、アーカ溶接サイクルタイム15%短縮(当社従来機種比)が可能です。主に自動車関連分野のアーカ溶接ラインで、大幅な生産性向上に貢献いたします。



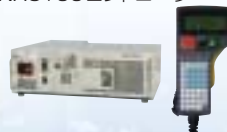
高信頼性と開発期間半減を可能にした モジュラーシステム SEMISTAR-Mシリーズ

半導体ウエハ搬送ロボットシステムは、1万台以上の納入実績で高いシェアを維持しています。この高い信頼性を確保したまま、搬送系システム開発期間、仕様検討と設計時間の大幅短縮を目指したSEMISTAR-Mシリーズは、160通りの組合せが可能な豊富なモジュールと、制御方法の選択ができるカスタマイズ機能を準備しました。システム全体を制御するコントローラは超小形でSEMI規格に準拠しています。今後も各モジュール群のラインアップの充実(種類・性能)を図り、お客様のご要望にお応えしてまいります。

ウエハ搬送用
単腕クリーンロボット
SEMISTAR-M122



NXC100コントローラ



安川情報システム株式会社

高性能Webフィルタリング専用アプライアンスサーバ 「NetSHAKER for i-FILTER」販売開始

私たちの生活において、インターネットはなくてはならないものとなってきています。インターネット社会では、「Web経由での情報漏洩防止」「悪質なコンテンツへの閲覧制限」等これからの社会に必要な『情報を選別する』ための技術（Webフィルタリング）が求められています。

このような市場のニーズに応えるアプライアンスサーバ「NetSHAKER for i-FILTER」の販売を開始いたしました。「NetSHAKER for i-FILTER」の特長はつぎのとおりです。

企業・官公庁では

Web上で掲示板への書き込みを行うと、管理者からはIPアドレスがわかってしまうのが普通です。情報漏洩だけでなく、会社自体が抗議・非難を受けてしまう場合があります。しかし、「NetSHAKER for i-FILTER」があれば、掲示板への書き込みをブロックし、書き込んだ内容、書き込みもうとした内容を記録・確認します。



教育現場では

生徒が有害サイトへのアクセスや授業の妨げになるような閲覧が簡単に出来てしまいます。しかし、「NetSHAKER for i-FILTER」があれば、ボタン1つでインターネットON/OFFやモード切替が可能となり、レポート機能により閲覧しようとしたサイトの把握も可能となります。

株式会社 ワイ・イー・データ

Wireless USB 製品のプロトタイプを開発

今後本格的にUWB（超広帯域無線）* 製品が広く市場に投入され、普及拡大が見込まれます。

ワイヤレスUSBハブ、ノートパソコンに内蔵するワイヤレスUSBアダプタ（写真）、機器組込アダプタ、その他応用製品を開発いたしました。これによりパソコン本体と周辺機器がケーブルレスでつながり、机上の省スペース化と操作性、利便性の向上を実現します。



*：UWBはギガヘルツ帯の広い周波数帯域を使用し、他システムとの干渉を抑える低送信電力（-41.3dBm以下）、近距離高速（最大480Mbps）通信を実現する方式です。

ロボットに搭載可能! 小形・高精度な三次元形状計測ユニット

このたび開発した三次元形状計測ユニットは、ロボットの“眼”として、複雑な形状の部品組み立てや、バラ積みされた部品を取り出すなどの作業を可能にします。

当社のロボット技術・形状認識技術と、浜松ホトニクス株式会社殿の光技術・光計測技術を融合させて開発したもので、ロボットの導入がすすんでいなかった組み立て作業への適用や、生活支援分野等の次世代ロボットへの適用が期待されています。今後は実用化に向けて、自社内でのフィールドテストを通して用途に適した認識機能の充実と製品展開を進めてまいります。



三次元形状計測
ユニットの外観



三次元計測ユニットを
ロボットに搭載した例

レーザー発光部 受光部

- 画像データ4ms、三次元距離データ1msで高速処理が可能
- 対象物を精度±1.0mmで計測可能
- 小形(外形寸法:幅190×高さ83×奥行120mm)
- 軽量(約1.4kg)

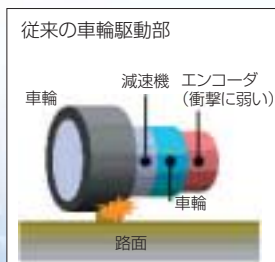
移動ロボットの車輪駆動に最適! エンコーダレスサーボモータ

近年、ロボットは産業用途だけでなく一般社会にも広がり始め、掃除ロボットや監視ロボットなど実用化が進んでいます。これらのロボットの多くは、車輪による移動機構をもち、どのような走行環境においても正確な移動が要求されます。

このような移動ロボットの車輪駆動用として、制御性能が極めて高く、省スペースかつ耐振性に優れたエンコーダレスサーボモータを開発いたしました。



エンコーダレス
サーボモータ



TOPICS

1

産業用多関節ロボット MOTOMAN

世界一の累積出荷台数を更新

MOTOMAN：出荷 15万台達成

1977年に日本で初めての全電気式産業用ロボット MOTOMAN（モートマン）第1号を出荷し、1988年に累積出荷台数1万台を達成しました。そして発売以来30年目となる2006年10月に当社ロボット工場（北九州市八幡西区）で累積出荷台数15万台に到達し、世界一の累積出荷台数を更新しました。

液晶ガラス基板搬送ロボット：業界初の1万台達成

1998年から販売を開始した液晶ガラス基板搬送ロボットの累積出荷台数も、業界ではじめて1万台を突破しました。記念すべき15万台目はこのタイプのロボットで、近年大形化が著しい液晶テレビ用パネル製造メーカーへ出荷いたしました。



MOTOMANシリーズは、アーク溶接用途をはじめとして、スポット溶接用、塗装用、液晶ガラス搬送用、半導体ウエハ搬送用などの受注が引き続き好調です。販売台数は、2005年度に引き続き、2006年度も世界トップシェアを確保しています。生産面では2006年1月のロボット新工場「MOTOMAN STATION（モートマンステーション）」の竣工と、既存の工場・設備強化と再構築により、月産2000台の生産能力を持つ世界最大生産拠点として順調に稼働しています。今後も各用途におけるお客様のニーズを最大限に取り入れた用途最適形ロボットを開発し、順次市場に投入してまいります。

● MOTOMANの出荷台数の推移と累積出荷台数



新世代産業用ロボット MOTOMAN 二つの優秀賞を受賞!

当社が製品化した新世代産業用ロボット3点すべてが賞を受賞しました。
今後もお客様からのご要望やアイデアをもとに、事業の柱としてますます進化させてまいります。

第1回「今年のロボット」大賞：優秀賞

経済産業省他が主催する第1回「今年のロボット」大賞で、MOTOMAN-DIA10とMOTOMAN-IA20が産業用ロボット部門で優秀賞を受賞しました。

書類による第1次審査と、経済産業省本庁でプレゼンテーションを行う第2次審査が行われ、①社会的必要性、②ユーザーの視点に立った評価、③技術的先進性の基準から、将来の市場創出への貢献度や期待度が評価されました。



表彰式に展示したMOTOMAN-DIA10(左)とIA20(右)

2006年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞

日本経済新聞社主催の2006年 日経優秀製品・サービス賞において、MOTOMAN-DA20が2006年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞 日経産業新聞賞を受賞しました。毎年1回、特に優れた新製品・新サービスを表彰するもので、今年で25回目です。審査は、技術開発性、価格対効果度、業績寄与度、成長性、独自性、産業・社会へのインパクトの観点に基づき行われました。



TOPICS

3

「セミコン・ジャパン2006」に出展

2006年12月6日～8日の3日間、幕張メッセで開催された半導体製造装置の国際展示会「セミコン・ジャパン2006」は、今回30周年を迎え、出展社数が1600社以上、来場者も10万人を超える大規模な展示会です。

当社は「安川電機が拓くメカトロ&ロボットの次世代ウェーブ」をテーマに、新形の直動式液晶搬送大形ロボットMOTOMAN-ECH2500Dとリニア駆動大形アライメントステージによる液晶ガラス基板の搬送デモ(写真)を中心に、各種ロボットやメカトロ製品を展示し、多くの来場者の注目を集めました。国内をはじめ、中国・韓国などの海外のお客様も多く、当社の総合力と高い技術力をご覧いただくことができました。



TOPICS

4

「YASKAWA 未来クラブ」の活動

安川電機創立90周年事業の一環として、株主のみならずをはじめ、地域社会の方々などから多くのご支援をいただいたことに対する感謝の意を表すために2005年9月に当社独自の社会貢献クラブ「YASKAWA 未来クラブ」を発足いたしました。具体的な活動内容は、趣旨に賛同して自発的に入会した当社及びグループ会社所属の社員から拠出した資金を医療・福祉、青少年の健全育成、環境保護・緑化に役立てていただくというものです。

2006年度の活動のひとつとして、特定非営利活動法人「子どもの村福岡を設立する会」の支援団体会員となり、支援金をお渡ししました。今後も、同会に対するボランティア活動やPR活動への参画など、様々な形で支援していく予定です。



「子どもの村福岡を設立する会」は、世界に広がるNGO(非政府組織)「SOSキンダードルフ(子どもの村)」の趣旨に賛同し、その理念を基本として日本で初めて福岡に子どもの村を設立する(2009年春ごろを目標)ことを目的とする組織です。

連結財務諸表（要約）

● 連結貸借対照表（平成19年3月20日現在）（単位：百万円）

資産の部		負債の部	
流動資産	187,760	流動負債	137,278
現金及び預金	13,356	支払手形及び買掛金	69,318
受取手形及び売掛金	99,231	短期借入金	23,111
有価証券	26	1年内償還社債	10,000
たな卸資産	58,136	未払費用	19,083
繰延税金資産	6,944	未払法人税等	5,600
その他流動資産	11,063	役員賞与引当金	153
貸倒引当金	△ 998	その他流動負債	10,010
固定資産	85,419	固定負債	49,659
有形固定資産	39,795	新株予約権付社債	6,200
建物及び構築物	17,703	長期借入金	7,439
機械装置及び運搬具	9,481	退職給付引当金	34,912
土地	7,767	役員退職慰労引当金	701
その他有形固定資産	4,843	その他固定負債	406
無形固定資産	7,679	負債合計	186,938
営業権	1,766	純資産の部	
ソフトウェア	5,389	株主資本	73,897
その他無形固定資産	522	資本金	19,953
投資その他の資産	37,945	資本剰余金	15,489
投資有価証券	23,011	利益剰余金	38,736
長期貸付金	284	自己株式	△ 282
繰延税金資産	11,790	評価・換算差額等	6,890
その他投資	3,183	その他有価証券評価差額金	4,619
貸倒引当金	△ 324	繰延ヘッジ損益	△ 8
		為替換算調整勘定	2,280
		少数株主持分	5,454
		純資産合計	86,242
資産合計	273,180	負債・純資産合計	273,180

● 連結損益計算書

（単位：百万円）

自平成18年3月21日 至平成19年3月20日	
売上高	368,971
売上原価	264,084
売上総利益	104,886
販売費及び一般管理費	71,322
営業利益	33,564
営業外収益	1,867
受取利息・配当金	512
持分法による投資利益	523
雑収益	830
営業外費用	2,048
支払利息	1,207
雑損失	841
経常利益	33,383
特別利益	3,076
固定資産売却益	1,069
投資有価証券売却益	1,976
その他特別利益	29
特別損失	6,486
固定資産廃却損	398
投資有価証券評価損	727
減損損失	2,167
事業構造改善費用	1,845
その他特別損失	1,346
税金等調整前当期純利益	29,973
法人税、住民税及び事業税	10,654
過年度法人税等追徴税額	842
過年度未払法人税等戻入額	△ 549
法人税等調整額	△ 794
少数株主利益	836
当期純利益	18,982

● 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

自平成18年3月21日 至平成19年3月20日											
	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
前 期 末 残 高	15,858	11,329	20,367	△ 309	47,246	4,739	-	764	5,503	4,090	56,840
当 期 変 動 額											
新 株 予 約 権 の 行 使	4,095	4,072			8,167						8,167
剰 余 金 の 配 当 (注)			△ 2,093		△ 2,093						△ 2,093
役 員 賞 与			△ 169		△ 169						△ 169
当 期 純 利 益			18,982		18,982						18,982
自 己 株 式 の 取 得				△ 62	△ 62						△ 62
自 己 株 式 の 処 分		87		89	176						176
連 結 子 会 社 増 加 に よ る 増 加			1,246		1,246						1,246
連 結 子 会 社 増 加 に よ る 減 少			△ 21		△ 21						△ 21
連 結 子 会 社 減 少 に よ る 増 加			1,602		1,602						1,602
連 結 子 会 社 減 少 に よ る 減 少			△ 141		△ 141						△ 141
持 分 法 適 用 会 社 増 加 に よ る 増 加			141		141						141
持 分 法 適 用 会 社 減 少 に よ る 増 加			89		89						89
持 分 法 適 用 会 社 減 少 に よ る 減 少			△ 1,268		△ 1,268						△ 1,268
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)						△ 120	△ 8	1,516	1,387	1,364	2,751
当 期 変 動 額 合 計	4,095	4,160	18,368	26	26,650	△ 120	△ 8	1,516	1,387	1,364	29,401
当 期 末 残 高	19,953	15,489	38,736	△ 282	73,897	4,619	△ 8	2,280	6,890	5,454	86,242

(注) 平成18年6月に第90期期末配当(1株につき普通配当5円に当社創立90周年記念配当1円を加えた6円)、同年12月に第91期中間配当(1株につき3円)をお支払いいたしました。

連結財務諸表（要約）

● 連結キャッシュ・フロー計算書 （単位：百万円）

自平成18年3月21日 至平成19年3月20日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	29,973
減価償却費	6,962
減損損失	2,167
退職給付引当金の増減額	△ 1,122
投資有価証券売却益	△ 120
関係会社株式売却益	△ 1,856
投資有価証券評価損	727
受取利息及び受取配当金	△ 512
支払利息	1,207
売上債権の増減額	△ 12,016
たな卸資産の増減額	802
仕入債務の増減額	1,100
未払金の増減額	△ 298
その他	△ 1,300
小計	25,713
利息及び配当金の受取額	694
利息の支払額	△ 1,270
法人税等の支払額	△ 10,147
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,990

自平成18年3月21日 至平成19年3月20日	
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産等の取得による支出	△ 8,429
有形固定資産等の売却による収入	1,103
投資有価証券等の取得による支出	△ 585
投資有価証券等の売却による収入	207
関係会社株式売却による収入	1,848
その他	△ 264
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,119
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額	△ 4,517
長期借入による収入	3,715
長期借入金の返済による支出	△ 6,062
配当金の支払額	△ 2,093
少数株主への配当金の支払額	△ 161
その他	158
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,960
現金及び現金同等物に係る換算差額	226
現金及び現金同等物の増加額	137
現金及び現金同等物の期首残高	12,102
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	975
現金及び現金同等物の期末残高	13,214

単独財務諸表（要約）

● 単独貸借対照表（平成19年3月20日現在）（単位：百万円）

資産の部		負債の部	
流動資産	114,136	流動負債	92,843
現金及び預金	6,219	支払手形	4,729
受取手形	8,323	買掛金	43,931
売掛金	59,008	短期借入金	9,704
製品	13,759	1年内償還社債	10,000
半製品	750	未払金	2,180
原材料	4,106	未払費用	10,610
仕掛品	5,095	未払法人税等	1,944
前渡金	236	前受金	879
繰延税金資産	2,486	預り金	8,486
未収金	2,526	役員賞与引当金	85
短期貸付金	4,928	その他流動負債	291
その他流動資産	6,716	固定負債	38,682
貸倒引当金	△ 21	新株予約権付社債	6,200
固定資産	71,515	長期借入金	5,800
有形固定資産	24,196	退職給付引当金	26,239
建物	10,022	役員退職慰労引当金	443
構築物	669	負債合計	131,525
機械装置	6,293	純資産の部	
車輛運搬具	47	株主資本	49,653
工具	1,244	資本金	19,953
器具・備品	524	資本剰余金	15,403
土地	4,517	資本準備金	15,399
建設仮勘定	876	その他資本剰余金	3
無形固定資産	5,567	利益剰余金	14,486
施設利用権	3	その他利益剰余金	14,486
ソフトウェア	5,190	繰越利益剰余金	14,486
その他無形固定資産	374	自己株式	△ 189
投資その他の資産	41,751	評価・換算差額等	4,472
投資有価証券	17,026	その他有価証券評価差額金	4,492
関係会社株式	14,292	繰延ヘッジ損益	△ 20
出資金	1	純資産合計	54,125
関係会社出資金	2,683	負債・純資産合計	185,651
長期貸付金	867		
繰延税金資産	8,588		
その他投資	1,768		
貸倒引当金	△ 3,477		
資産合計	185,651		

● 単独損益計算書（単位：百万円）

自平成18年3月21日 至平成19年3月20日	
売上高	216,268
売上原価	167,600
売上総利益	48,668
販売費及び一般管理費	34,528
営業利益	14,139
営業外収益	6,755
受取利息・配当金	6,551
雑収益	203
営業外費用	1,067
支払利息	317
社債利息	166
債権売却損	216
為替差損	146
雑損	220
経常利益	19,828
特別利益	4,262
固定資産売却益	27
関係会社株式売却益	1,764
貸倒引当金戻入益	1,313
債務保証損失引当金戻入益	1,101
その他特別利益	55
特別損失	7,812
固定資産廃却損	277
投資有価証券評価損	648
減損損失	4,140
事業構造改善費用	1,731
その他特別損失	1,015
税引前当期純利益	16,277
法人税、住民税及び事業税	3,673
過年度法人税等追徴税額	779
過年度未払法人税等戻入額	△ 549
法人税等調整額	△ 486
当期純利益	12,860
第91期（自平成18年3月21日 至平成19年3月20日）配当について	
中間配当	1株につき 3円
期末配当	1株につき 3円
年間	1株につき 6円

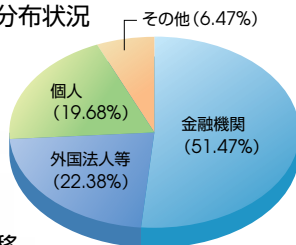
株式の状況 (平成19年3月20日現在)

発行可能株式総数 …………… 560,000 千株
 発行済株式の総数 …………… 243,953 千株
 株主数 …………… 22,311 名

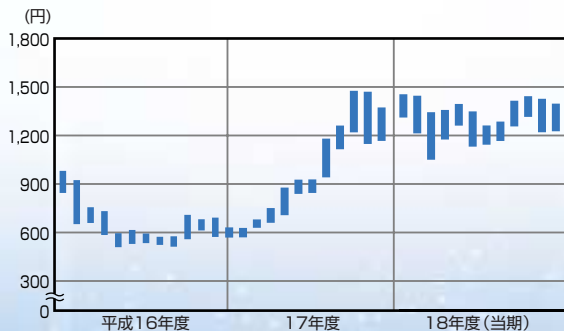
主要大株主	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	23,280 千株	9.55%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,186 千株	5.82%
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	8,071 千株	3.31%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井信託銀行退職給付信託口)	7,970 千株	3.27%
明治安田生命保険相互会社	7,967 千株	3.27%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社福岡銀行退職給付信託口)	6,375 千株	2.62%
日本生命保険相互会社	4,247 千株	1.74%
ピービーエチルクスファイアリティフアンズジャパンファンド	4,068 千株	1.67%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,972 千株	1.63%
野村信託銀行株式会社(投信口)	3,921 千株	1.61%

(注) 出資比率は、自己株式を控除して算定しております。

所有者別株式分布状況



当社株価の推移



(注) 東京証券取引所における月別の高値、安値を表示しています。

役員 (平成19年6月19日現在)

取締役会長	中山 眞
取締役社長	利島 康司
専務取締役	武井 紘一
常務取締役	鬼頭 正雄
常務取締役	岩田 定廣
取締役	佐藤 光昭
取締役	沢 俊裕
取締役	宮原 範男
取締役	清水 喜文
取締役	宇佐見 昇
取締役	後藤 英樹
取締役	津田 純嗣
取締役	中村 公規
取締役	小笠原 浩
取締役	本松 修
常任監査役(常勤)	堀田 忠和
監査役(常勤)	実松 敏文
監査役	谷 正明
監査役	多喜田 一郎

株主メモ

事業年度	毎年3月21日から 翌年3月20日まで	株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
定時株主総会	6月	同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(配当金受領) 株主確定日	毎年3月20日(期末配当金) 毎年9月20日(中間配当金)	(郵便物送付先) 電話照会先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(フリーダイヤル)0120-288-324
公告掲載新聞	日本経済新聞	同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	東京・福岡		

ホームページのご案内

下記の当社ホームページにて、決算情報やニュースリリースを随時ご提供いたしております。
<http://www.yaskawa.co.jp/>

株式の事務手続き(届出住所・印鑑・姓名等の変更、株券失効の申請、配当金振込指定、単元未満株式買取請求、単元未満株式買増請求、名義書換請求等)書類のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより受け付けておりますので、ご利用ください。

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-288-324

インターネット <http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

会社の概要 (平成19年3月20日現在)

商 号 株式会社 安川電機
英文社名 YASKAWA Electric Corporation
設 立 大正4年7月16日
従 業 員 8,056名 (連結) 2,773名 (単独)
事 業 所 本 社 〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石2番1号
電話 (093) 645-8801
東 京 支 社 〒105-6891 東京都港区海岸一丁目16番1号
電話 (03) 5402-4502
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目25番9号
電話 (052) 581-2761
大 阪 支 店 〒530-0003 大阪市北区堂島二丁目4番27号
電話 (06) 6346-4500
九 州 支 店 〒810-0001 福岡市中央区天神四丁目1番1号
電話 (092) 714-5331
工 場 等 八幡西事業所・八幡東事業所・行橋事業所
入間事業所・小倉事業所

国内関連会社

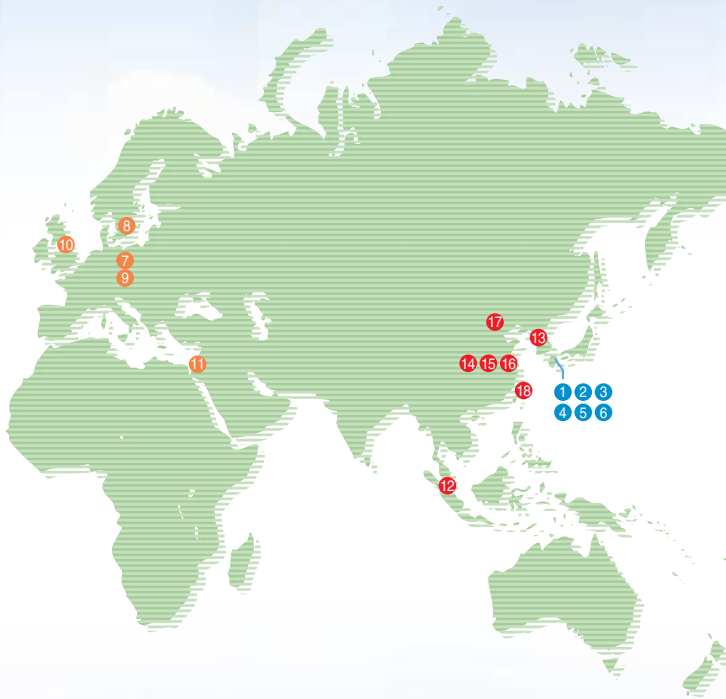
JAPAN

- 1 株式会社 ワイ・イー・データ
電算機周辺・端末機器の製造・販売ならびに
Ontrack (オントラック) データ復旧サービス
- 2 安川情報システム株式会社
計算処理受託・ソフトウェア開発ならびにシステム機器販売
- 3 安川コントロール株式会社
電気機械器具及びその部品の製造及び販売
- 4 安川エンジニアリング株式会社
電気機械設備の保全・整備及び技術指導
- 5 株式会社 安川ロジステック
製品の保管・輸送等の物流サービス
- 6 安川モートル株式会社
電動機、発電機及び電動機応用製品の設計・製造・販売

海外関連会社

EUROPE

- 7 YASKAWA ELECTRIC EUROPE GmbH (ドイツ)
電気機器の輸入・製造・販売・サービス
- 8 MOTOMAN ROBOTICS EUROPE AB (スウェーデン)
ロボット及びロボットシステムの製造・販売・サービス
- 9 MOTOMAN ROBOTEC GmbH (ドイツ)
ロボット及びロボットシステムの製造・販売・サービス
- 10 YASKAWA ELECTRIC UK LTD. (イギリス)
インバータの製造・販売・サービス
- 11 YASKAWA ESHED TECHNOLOGY LTD. (イスラエル)
モーションコントロール製品の開発及び製造

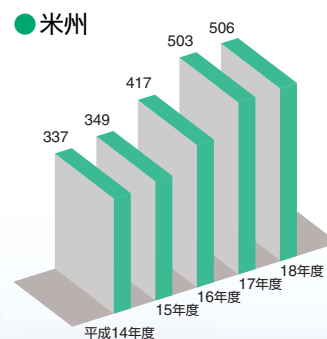
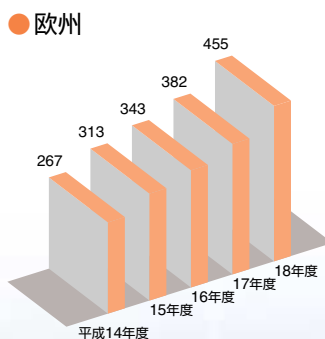
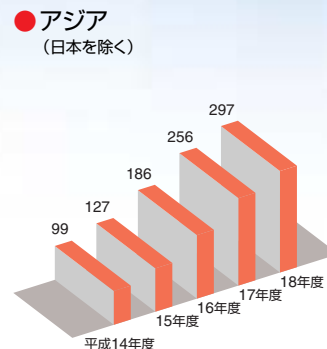
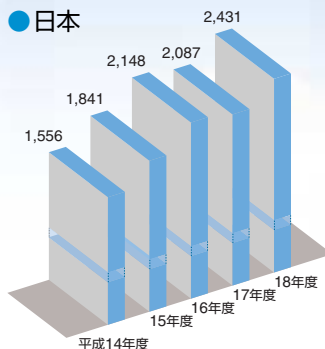


ASIA

- 12 YASKAWA ELECTRIC (SINGAPORE) PTE. LTD. (シンガポール)
電気機器の輸入・販売・サービス
- 13 YASKAWA ELECTRIC KOREA CORPORATION (韓国)
電気機器の輸入・販売・サービス
- 14 SHANGHAI YASKAWA-TONGJI M & E CO.,LTD (中国)
電気機器の製造・販売・サービス
- 15 YASKAWA ELECTRIC(SHANGHAI) CO., LTD.(中国)
電気機器の輸入・販売・サービス

会社所在地別・売上高の推移

単位:億円



ASIA

- ⑯ SHANGHAI YASKAWA DRIVE CO., LTD. (中国)
電気機器の製造・販売
- ⑰ SHOUGANG MOTOMAN ROBOT CO.,LTD. (中国)
ロボット及びロボットシステムの製造・販売・サービス
- ⑱ YASKAWA ELECTRIC TAIWAN CORPORATION (台湾)
電気機器の輸入・販売・サービス

AMERICA

- ⑲ YASKAWA ELECTRIC AMERICA INC. (アメリカ)
電気機器の輸入・製造・販売・サービス
- ⑳ MOTOMAN INC. (アメリカ)
ロボット及びロボットシステムの製造・販売・サービス
- ㉑ YASKAWA ELÉTRICO DO BRASIL COMÉRCIO LTDA. (ブラジル)
電気機器の輸入・製造・販売・サービス



YASKAWA



- 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
- 環境にやさしい植物性大豆油を使用しています。